

AI 活用で挑む学問の革新と創成
2021 年度採択研究者

2021 年度 年次報告書

中尾 悠里

富士通(株) 富士通研究所
研究員

AI と人の相互作用による技術哲学の創出

§ 1. 研究成果の概要

本課題ではパーソナライゼーションを通じて、ユーザーの変化からの影響を直接的に受ける AI 技術を考慮した技術哲学の創出により技術と人間のインタラクションを考慮した規範を提示することをねらう。インタラクションの考慮のために、人間の価値観の変化に伴いインタラクティブに変化する AI ツールの開発・評価を行う。このツールの開発のために、本年度は人が持ちうる価値観を利害関係者から抽出し、技術／非技術施策を考案するワークショップ手法の設計を行った。

このワークショップ手法の設計では、本研究課題で対象とするタスクの検討、リサーチクエストの検討、ワークショップに参加する利害関係者の決定、ワークショップ手順の決定を行った。また、手法として Co-Design の方法論を拡張することを試みた。Co-Design は研究者・設計者とその他の利害関係者(非専門家)の間のヒエラルキーをなくし、共同開発者として対話の場に参加するために考案された方法論である。Co-Design の方法論の拡張のため、Co-Design に対する批判に対する対策を検討した。

結果的に、ワークショップの参加者が技術的な施策にこだわらず非技術的な施策も考慮することができ、主催者や技術によって誘導されず自律的に価値観を発言できることを狙うワークショップ手法を設計した。この手法は自身の決定について振り返りながら技術的／非技術的施策を割り出していく3回のワークショップからなる。来年度以降は、設計したワークショップ手法を用いて、情報検索・推薦の技術を対象とし、ユーザーを技術の習熟度によって分けることでより多様な参加者を募り、できるだけ多様な価値観を抽出した上で技術開発を進める。